

水・緑・人が織りなす古都のかがやき

自然と歴史と時代の文化が響きあう古都大津の景観を創り、育てる

水が煌めく
景観

これまで人を引き付けて止まなかった琵琶湖に抱かれ、育まれ、琵琶湖を望み続けてきた大津において、これにつながる河川を含めた水とともにある景観の実現を目指します。

緑が薫る
景観

周囲を山並みに囲まれた大津において、前面に広がる田園、市街地周辺の前山が保全され、市街地内が緑に満ちた、緑豊かな景観の実現を目指します。

歴史を育む
景観

近江大津京が開かれてから歴史の表舞台に登場し、その後歴史上の重要な地域として発展し、歴史と文化を積み重ねてきた古都大津において、住まう人や訪れる人が歴史を体感できる景観の実現を目指します。

基本方針1：水と緑の大景観を守る

大津を特徴づけ、また魅力あるものとし、人々に愛され続けてきた琵琶湖、その琵琶湖に迫り雄大な自然景観を形成する比良山系、比叡山から音羽山に至る古都を抱く山並み、広大な田園地帯の背後に連なる田上山地など、この琵琶湖と山並みで構成される大景観は、市街地、湖上、山上・山間よりの眺望景観の基底をなす重要な要素となっています。そのため、この自然環境を守ることを大津市の景観形成の第一義とするとともに、琵琶湖や山並みを眺望する視点場及び視点場からの景観を保全します。

基本方針2：古都大津の歴史的景観を守り、育てる

大津は古来より、政治的、経済的、文化的に重要な地域であり続けたことから、各時代の歴史文化資産が重層的に残されており、周辺の自然環境と一体となって、近江八景等に代表される特徴ある歴史的景観を形成してきました。そのため、これらの景観を保全するとともに、都市化の進行により崩されてきた歴史的景観を現代に再生し、歴史資産として、また人々の心にうるおいを与える資産として価値ある歴史的景観を創造します。

基本方針3：自然と人々の営みが創り出してきた
美しい景観を守り、育てる

白砂青松の湖岸、背後に迫る雄大な山並みやそこに端を発する河川と一体となって形成される田園風景、里山林を背にあるいは湖と面した集落など、豊かな自然と、その中で展開されてきた人々の営みによって、美しい景観が創り出され、また守られてきました。このような景観は、雄大な自然景観の中に織り込まれながら、古都大津の風景を特徴づける重要な景観要素となっています。そこで、地域の人々の手を加えながら、この美しい景観を保全するとともに、より魅力ある、人々を引き付ける景観へと高めていきます。

基本方針4：大津の顔となる景観を創る

大津には、各時代に都、寺院、城郭等を中心としたまちを象徴する景観が形成されてきました。しかし、時代の変化に対応していく中で、従来の顔が喪失されてきました。そこで、大津駅前、浜大津から膳所にかけての湖岸部等、大津の表玄関となる地域において、琵琶湖岸の親水性、まちの借景となる山並み、歴史的まちなみやまち全体が持つ歴史性等の地域特性を積極的に活かし、古都大津の顔となる個性と風格のある都市景観を創造します。

基本方針5：個性ある地域景観を創り、育てる

大津市は多様で重層的な歴史、文化を持つ地域により構成される都市であり、その多様性こそが大津らしさであると考えられることから、各地域において、地域資源を十分に生かし、住民や事業者が主体的に個性あるまちかど、まちなかの景観づくりを推進します。